

あ と が き

『一人一人の幼児が自分なりの力を発揮し、友達とかかわり合いながら生きる力をやしなう』これは、現在の本園の教育目標です。この教育目標は子ども達を取り巻く社会の変化、そしてそれにとまなう子ども達が見せる姿の変化に応じて、見直しを重ねてきています。

昭和43年度の本園の指導計画の中に、その当時の本園教育の基本理念が書かれている項があります。幼児の理想像が明記されている後に『そして教育とは社会に適応し、生活を向上させるために必要な、幼児の知識と技能と態度の開発を助長することであると考えている』と文章が続いています。昭和43年というとは高度成長期の真ただ中であり、沖縄が返還された年です。このような社会状況から『生活を向上させるために必要な、幼児の知識と技能と態度の開発を助長すること』が大事にされたのでしょう。

では、平成23年、まさに今は何を大事にし、子ども達を教育していけばよいのでしょうか？私は本園の教育目標の中にも謳われている『生きる力』がキーワードになると考えています。『生きる力』とは言うまでもなく、『変化の激しいこれからの社会を生きる力』のことです。そのために子ども達に必要なとなるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると言えましょう。加えて、たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもありません。(中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」第1次答申参照)

この『生きる力』をやしなうために、本園の幼児らがどのような道筋で育っていくのかを目の前の幼児の実態に即して明らかにし、教育課程を編成したのが昨年度の研究です。続けて、具体的にどのような保育を展開していけばよいのか、そのよりどころとなるべく指導計画を作成することを目的に研究を進めてまいりました。

教育課程の編成や指導計画の作成を目的にした研究においては、出来上がったものからその研究で得た学びを皆様に発信し、読みとっていただくことは大変難しいと考えております。週1回のペースで続けてきた研究会で討論した内容そのものが我々の学びとなりました。その一端しか発信できないことにもどかしさを感じていますが、本紀要を御一読いただき、忌憚のないご批判ご指導をいただければ幸いです。

最後になりましたが、これまでの研究にご指導いただいた多くの先生方に厚く御礼申し上げます。今後の研究の更なるご批判ご指導をお願い申し上げます。

平成23年6月

副園長 上田 ますみ